

令和3年 丹波市10大ニュース 一覧

【ふるさと創造部総合政策課】

	タイトル及び説明
●	高校3年生相当への一早いワクチン接種などコロナ対策の強化・生活支援事業を展開 4月26日、高齢者へのワクチン接種を施設入所者を対象に開始し、5月18日から看護専門学校体育館を会場に集団接種を開始した。6月下旬から医療機関での個別接種開始や、8月上旬に受験などを控えた高校3年生相当の接種を一早く実施するなど接種対象者を段階的に増やし、11月13日に集団接種を終了。終了時点で接種率は、12歳以上の接種対象者に対し、1回目87%、2回目86%となった。 また、新型コロナウイルス感染症対策に迅速かつ柔軟に取り組むため、6月1日、ふるさと創造部に新型コロナウイルス感染症対策室を設置し、感染対策事業や支援事業を展開。生活困窮者に優先すべき寄り添った支援策として、住民税非課税世帯や家計急変世帯を対象とした生活支援商品券の給付や水道料金の基本料金の免除などにも取り組んだ。
●	丹波のキセキを学ぶ「氷上回廊 水分れフィールドミュージアム」オープン！ 昭和63年に開館した「丹波市立水分れ資料館」を改修し、3月20日、記念講演にさかなクンを迎え、氷上回廊水分れフィールドミュージアムとしてオープンした。オープン後は「丹波の農業展」や「いもむし・けむし展」をはじめとする4回の企画展に加え、月2回以上のイベントを開催し、11月末現在での入館者数は、28,000人を超えた。 また、市内の児童や生徒を対象に、「氷上回廊」や「水分れ」を知ってもらうための副読本「氷上回廊が教えてくれたコト～未来につなぐ丹波のキセキ～」を発行・配布した。今後も副読本を活用した出前授業を積極的に行い、その魅力を子どもたちに伝えていく。
●	史上初！全国高等学校女子硬式野球選手権大会の決勝戦を阪神甲子園球場で開催 7月24日、“女子高校野球の聖地”丹波市で開幕した第25回全国高等学校女子硬式野球選手権大会は、史上最多の40チームが出場し、8月1日の準決勝まで熱戦を繰り広げた。 決勝戦は8月23日、史上初めて“高校野球の聖地”阪神甲子園球場で、神戸弘陵学園高校(兵庫県)と高知中央高校(高知県)の対戦となり、神戸弘陵学園高校が高知中央高校を4対0で破り、5年ぶり2度目の優勝を飾った。 「女子高校野球選手も甲子園で」という選手や関係者らの長年の願いがついに実現し、女子高校野球に新たな歴史が刻まれた。
●	福知山線全駅にICOCA対応改札機が導入～公共交通のさらなる利便性向上に取り組む～ 3月13日、西日本旅客鉄道株式会社によるICOCAエリア拡大により、市内の福知山線全駅にICOCA対応改札が導入され、同日、柏原駅で記念式典やイベントが開催された。今後の観光客など交流人口の拡大にも期待される。 市では、令和3年2月にコロナ禍による「新しい生活様式」への転換として全世帯にICOCAを1枚配布や、3月にはデマンド型乗合タクシー全車両に決済機を導入。また、7月に福知山線の市内駅からICOCAでの乗車でポイントを付与する事業を始めるなど、さらなる公共交通全体の利便性向上に向けて取り組んだ。
●	プラスチック系ごみ袋料金を改定～ごみ減量に向け新たな取り組みを推進～ 丹波篠山市清掃センターで処理している山南地域のごみを令和9年度から丹波市クリーンセンターで受け入れる予定である状況のなかで、丹波市クリーンセンターの焼却能力が限界に近づいていることから、燃やすごみの減量策として、容器包装プラスチックの分別徹底を促進し、資源化への意識向上及び燃やすごみに混入されている容器包装プラスチックの減少を図るため、プラスチック系ごみ袋料金を令和3年8月1日から、1枚当たり大袋50円を20円に、中袋30円を15円に改定した。 また、燃やすごみの減量をより一層推進するために、今後取り組むべき施策について検討し、方向性を取りまとめた。

	タイトル及び説明
●	丹波竜化石工房ちーたんの館来館者50万人突破！～新たに最古の新種トカゲ化石発見～ 平成22年12月にオープンした丹波竜化石工房ちーたんの館の来館者数が、11月3日に50万人を突破した。丹波竜化石工房は丹波竜をはじめ篠山層群から発見された化石の展示等篠山層群の情報発信施設として市外からも多くの来館者があり、近年では年間約6万人の来館者がある。 また、11月25日には、同篠山層群からトカゲ類の下顎の一部と見られる化石発見が発表され、「モロハサウルス・カミタキエンス」と命名された。 このトカゲ類化石は、国内では初のモンスターサウリア類で、同種では世界最古の化石であることが判明。昨年に続き新属新種の化石が報告されるなど、さらに今後の調査研究が期待される。
●	みんなで子育てを応援するハッピーバース応援事業を開始 総合戦略子育てを応援するまちの実現に向け、妊娠から2歳児までの子育て世帯に向け、産業・大学・官民が一体となり、地域みんなで子育ての節目を応援してもらっている実感を持てるハッピーバース応援事業を開始した。 ちーたんバッグに、市産材の木のおもちゃ、赤飯レトルト、赤ちゃん向けの番茶などの丹波市ならではの製品と、紙おむつなどを捨てやすい小のごみ袋をハッピーバース応援ギフトとして贈る取り組みや、併せて妊娠・出産に伴う経済的負担を軽減するため、妊娠前診察費の助成などにも取り組んだ。
●	持続可能な地域社会の形成に向け「丹波市過疎地域持続的発展計画」を策定 令和3年4月1日、過疎地域の実情に応じて実施する施策に対して特別措置を講じるために「過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法」が施行され、人口減少要件などから青垣地域が過疎地域とされた。 青垣地域の持続可能な地域社会の形成及び、地域資源等を活用した地域活力の更なる向上に向けて、移住定住や産業、生活環境や保健福祉、教育などの各分野にわたる必要な事業計画を策定し、総合的かつ計画的な対策を講ずることを目的として、丹波市過疎地域持続的発展計画を定めました。今後は、計画に基づき地域の持続的発展に向けた取り組みを進める。
●	ふるさとへの移住実績が好調！丹波市への移住者獲得に向けてさらに邁進 コロナ禍によるふるさと回帰の機運の高まりを受け、移住実績が好調で、さらなる移住者獲得に向けて、オンラインでの移住相談やマッチングサービスの活用を図った。 平成27年11月の住まいるバンクを開設して以降、令和3年6月には、住まいるバンクを通じた成約件数が200件に到達した。100件達成には3年7カ月を要したが、200件到達は、2年での達成となった。 また、たんば”移充”テラスを通じた移住者数は、令和2年度に過去最高の101人に上ったが、令和3年度は、10月末時点で80人と、さらにそれを上回るペースで伸びた。
●	健康寿命延伸に向けて高齢者の保健事業と介護予防の一体的な「フレイル対策」を実施 健康寿命延伸に向けて、切れ目のない継続的な支援を実現するため、令和3年度から医療・保健・介護等庁内担当部局が一体的になってフレイル（虚弱）対策に関する事業を開始した。 市の疾病統計において、食物や唾液等が気管支への誤嚥により生じる「誤嚥性肺炎」の死亡が多く、また医療費も高いという特徴があったため、口腔機能のフレイル予防対策に保健師・歯科衛生士を1名ずつ配置し、個別訪問や、通いの場「いきいき百歳体操」の会場において口腔ケアに関する講話、口腔機能の計測や口腔体操を行った。 今後も事業検証を行いながら、個別・集団の双方から高齢者の健康づくりに対して切れ目のない継続的な支援を行っていく。